

平成21年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

事業名	「知識・技術・感性の統合産業—ファッション業界の仕事を知る」		
法人名	学校法人 文化学園		
学校名	文化服装学院		
代表者	理事長 大沼 淳	担当者 連絡先	生涯学習部副部長 井手口和子 TEL 03-3299-2231
1. 事業の概要等			
<p>○経緯・背景</p> <p>人間しかしない「衣」のもつ感性や役割、こだわり（流行）が価値を創り出している。また、世界が注目する日本の伝統的地域の独自生産品の市場の現状を理解する。その上で、繊維を含むファッション産業における多様な職種を紹介、体験し、職業の広がり、関連性を学び、仕事をイメージし、個人の特性を生かした職業選択に役立てる。</p> <p>家庭科教育の中で、「衣」にかかる時間が少なく、教える人材も少ない。かつて日本の基幹産業であり、現在も地場産業として続いているところも多く、日本ならではのものづくりを行う拠点として見直されている。また、その地場産業の復興により雇用の拡大と、新たな産業の創出が見込まれる。</p> <p>○特徴 ※教員の関心が強く、教員の研修目的で、教員のみ参加依頼も多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションビジネス業界では、その業態の違いから大きく3つに区分される。             <ul style="list-style-type: none"> <li>川上（繊維素材・テキスタイル）</li> <li>川中（アパレル産業）</li> <li>川下（小売）</li> </ul> </li> <li>本講座は、一般にわかりにくい「川上」「川中」にテーマを絞り、3講座を設定。生徒は、希望の講座を選択、受講可能。</li> <li>・3講座とも、講義は文化服装学院（東京）内の教室、実習室で行う。</li> <li>・講座期間は3日間</li> <li>・参加条件は、原則として3日間とも出席すること。</li> <li>・3日中1日（8月4日（火））は、バスで校外見学・実習へ行く。</li> </ul> <p>○事業の実施</p> <p>講座の基本構成は下記のとおり。</p> <p>講義時間 1コマ50分</p> <p>講義・実習総数 17時間（学院内講義・実習 10時間、校外活動 7時間）</p> <p>* 校外活動時間 1日（基本 9:00~17:00）</p> <p>○事業の概要</p> <p>参加専修学校数 : 2校（文化学園含む） 《昨年度 2校（文化学園含む）》</p> <p>参加高校数 : 26校（教員のみ参加が4校有 合計30校）</p> <p style="text-align: right;">《昨年度13校》（教員も参加が1校有）</p> <p>設定・実施講座数 : 設定3講座、実施3講座 《昨年度 設定3講座、実施2講座》</p>			

受講者数 : 51名 (教員9名 合計60名 生徒24名増、教員7名増)  
(内訳: 高1生 7名、高2生 10名、高3生 34名)  
《昨年度 27名(教員2名 合計29名)》  
\* 教員の実習材料費等経費は、文化学園にて負担

講座開催日 : 8月3日(月)～5日(水) 3日間  
《昨年度 平成21年8月26日(月)～29日(金) 4日間》

## 2. 事業の実施に関する項目

### ①職業体験講座の実施

#### 【講座1】繊維産業を知る～繊維の役割とクリエーション

繊維の役割、繊維生産、ビジネス形態の知識を学ぶ

\* 校外実習は、足利レース産地、地場産業振興センター、佐野アウトレット

受講者数 10名

(3年6名、2年2名、1年2名 男1名 女9名) \* 教員2名

#### 【講座2】アパレル産業を知る～新たなファッションニーズを捉えて

人の身体を知る(変化や違い)、アパレル産業内の多様な職種

\* 校外実習は、(株)オンワード樫山、(株)資生堂、裏原宿クルージング

受講者数 37名

(3年25名、2年8名、1年4名 男5名 女32名) \* 教員6名

#### 【講座3】地球にやさしい、人にやさしいものづくり

～技術と感性とところ遣いから生まれる服づくり

身体を知る(変化や違い)、環境に視点をのこしたものづくり、リフォーム市場の現状、起業家を目指すノウハウ

\* 校外実習は、日本工学院専門学校(医療カレッジ)、インキュベーション施設、世田谷区立総合福祉センター展示室

受講者数 4名

(3年3名、2年0名、1年1名 男0名 女4名) \* 教員1名

\* 講座カリキュラム・スケジュールは、参加レポートは別紙参照

### ②その他

### 3. 事業の成果・評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況・評価について

受講者満足度	大変満足	26名	(51%)	
	やや満足	23名	(45%)	
	普通	0名	(0%)	
	やや不満	1名	(2%)	* 校外研修の都内クルージングおよび、受講生
	大変不満	0名	(0%)	負担担で学院が手配したお弁当が不満とのこと。
	無回答	1名	(2%)	* 全日程欠席者

高校教員満足度	大変満足	4名	(57%)	
	やや満足	3名	(43%)	
	普通	0名	(0%)	
	やや不満	0名	(0%)	
	大変不満	0名	(0%)	

#### ②次年度以降における課題・展開

消えゆくような日本の伝統を絶やさないためにも、若い生徒達に選択肢と知識を与えるためにも、知りづらい、理解しづらい職種と、業態について重点を置き開催していきたい。

地域や経済環境によって変化しても、地場で生まれたものに愛着を感じさせ、日本のものづくりの良さを再認識し、新しい発展を望むために、地方の高校、専門学校とさらに手をつなぎ開催していきたい。

商業の相手は、日本以外のグローバル化を目指す。